

# 稲作情報

発行日：令和7年8月29日  
京都府山城南農業改良普及センター



## ～第5号～ 稲刈り編

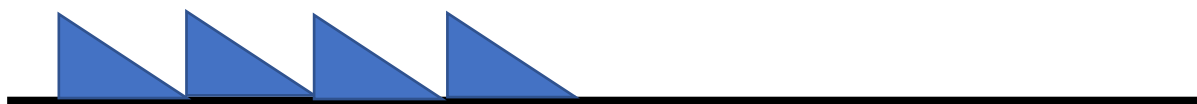
8月は、最高気温35℃超え（不稔粒の発生増）が25日間、  
日平均気温27℃超え（白未熟粒の発生増）が24日間ありました。  
降水量は平年比約88%と少なく、今後の水不足が懸念されます。

### 1.稲刈り期の水管理

#### 【通常時】

間断かんがい

落水



① 籾を充実させるためには、出穂から30日程度は水が必要なので、  
間断かんがいを行う。

② 出穂後30日をめやすに落水する。

コンバイン収穫ができる程度まで、地面を固める。

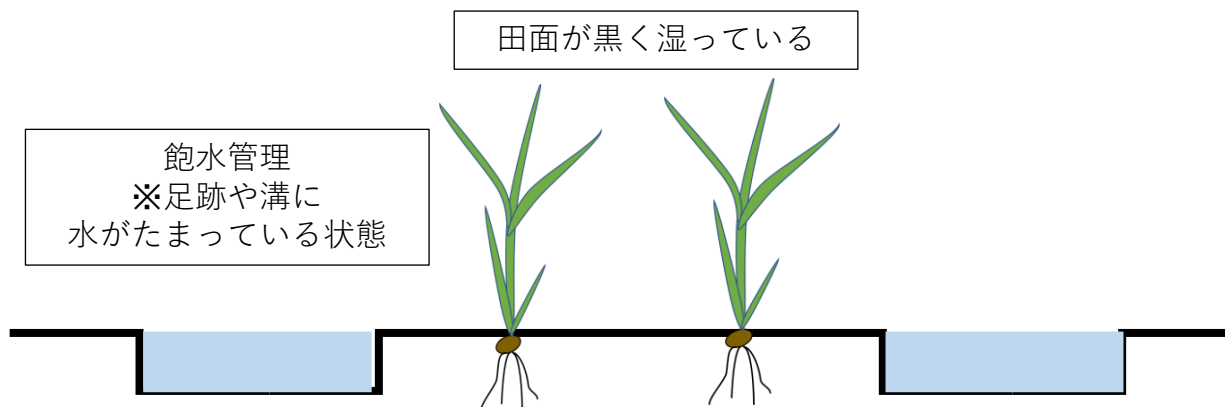
※落水日は、ほ場の土質・天候により調整する。

※落水が早すぎると、胴割れ米が増え、品質が低下するので注意

#### 【節水栽培（高温・干ばつ時）】

田面が黒く湿っている

飽水管理  
※足跡や溝に  
水がたまっている状態



① 水がない場合は常時湛水せず、飽水管理（別名：ひたひた水管理）  
を行う

② 最低限、土が黒く湿っている状態を維持する

## 2.刈取り適期（ヒノヒカリ・きぬむすめ）

（１）刈取適期 7～10 日前

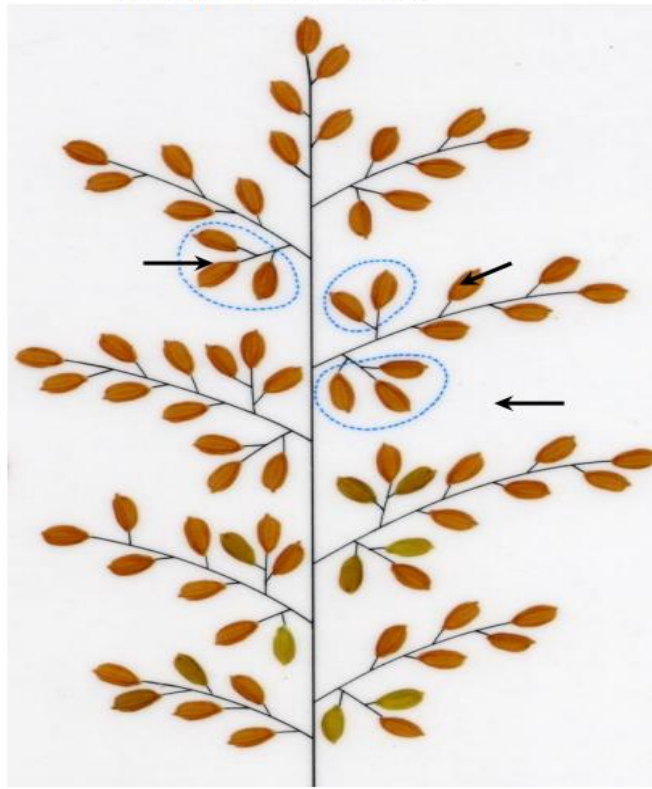
（籾黄化率 50～70％）



**矢印** 点線内の籾（上・中位 1 次枝梗）は黄化しているが、残りの点線内の籾（2 次枝梗）はまだ緑色

（２）刈取適期

（籾黄化率 85～90％）



**点線** 1 の 2 次枝梗が黄化した時

出典：JA全農

	青籾の割合	出穂日からの日数	出穂日からの積算温度	穂軸の熟れ
きぬむすめ	10～15%	35日～43日	1050℃～1100℃	先端～1/3が黄化
ヒノヒカリ	10～15%	43日～48日	1000℃～1050℃	

## 3.ごま葉枯病

病斑



激発時 穂枯れ



- ・砂質ほ場、肥料分がないほ場で発生しやすい
- ・多発すると穂枯れを起こす

### 【対策】

- ・穂肥
- ・土壌改良資材、ケイ酸質肥料の施用
- ・種子消毒
- ・水管理で根の活力を保つ